



第21期大阪狭山市まちづくり大学 公開講座

令和7年9月20日(土) 14:00~16:00

場所 SAYAKA ホール大会議室

テーマ 「地域防災」

消防署も市役所も被災！

その時、あなたはどうしますか！

講師 山村 嶽 氏

大阪狭山市消防団団長、

東池尻自主防災会会長(令和元年～令和6年度)

【市民活動支援センター長林部浩士さん】

本日はお忙しい中、第21期まちづくり大学公開講座にご参加いただきありがとうございます。

今月に入り大雨や竜巻による災害が各地で発生しており、私たちの暮らしに大きな影響を与えています。また南海トラフ地震も今後30年以内で80%の確率で起きるといわれています。災害はいつ、どこで起こるかわかりません。しかし、日頃から防災意識を高め、備えを充実させることで、被害を最小限に抑えることができます。本日は、防災の知識や技術を深めるとともに、地域住民としてお互いに協力し合い、災害に強い地域づくりを目指していくための第一歩となるよう、皆さんと共に防災について学び、「いのちを守る」ためにできることを考える貴重な機会となればと願っております。

本日は「地域防災～消防署も市役所も被災！その時あなたはどうしますか」というテーマで、大阪狭山市の地域防災活動のリーダーとして活躍されている山村歳幸さんを講師として招いています。

過去の災害から学ぶべき教訓や、市役所、消防署など行政機関が機能しないときに我々、地域住民がとるべき具体的行動などをわかりやすくお話ししていただきます。

この講座が、皆さん一人一人の心の中に防災への意識を深め、それぞれの地域で防災活動を推進し、より安全で安心できる地域づくりを実現していくことを心より願っております。

それでは、どうぞよろしくお願ひいたします。

水災害



【山村歳幸さん】

●今年の夏は、異常気象により線状降水帯が多発し、日本各地で大きな被害が発生しました。防災の専門家はこれを「水災害」と呼ぶことが多いです。今見て頂いている画像と動画は、大阪狭山市において近年発生した水災害の様子です。最後の河川の様子は2年前に大阪狭山市で初めて「避難指示警戒レベル4」が発令された西除川流域です。消防署と消防団は住民にすぐに避難するよう呼び掛けて回ったのですが、結局避難されたのは1世帯に留まりました。

●冒頭より大変失礼しました。防災は、危機感を持って取り組むことが大切だと思い、身近での災害現場の様子を見ていただきました。

●大変申し遅れました。山村歳幸と申します。本日は、まちづくり大学の公開講座にお呼びいただき有り難うございます。私は26才の時に消防団に入れていただき、それから44年間、地元で商売をしていることもあり地域にどっぷり浸かってきました。そして、あととあらゆる地域の活動に関わらせていただき、どれも全力投球でやってまいりました。その間、多くの人と出会い、多くの学びをさせて頂きました。そのお陰で、市の審議委員会

に出て、市や地域での活動の時も、多方面から総合的に判断できるようになったのかなあと勝手に思っています。まちづくりというのは、防災や都市計画だけでなく、福祉や教育や産業など色々なことが絡み合って成り立っています。学生の皆さんにはこの大学でいろんな事を学び、是非地域にお力を貸しください。

その私の人生、最後の最後が、消防団長という、市民の命に直結する重要な任務を仰せつかりました。5万7千人の市民の安全と安心を守るために消防団員が一丸となって邁進してまいりますのでみなさまのご協力よろしくお願いいたします。今日は、地域防災に特化してお話をさせて頂きますのでよろしくお願ひいたします。

盛り沢山なんで、ガンガン行きますので、みなさんにはその中から一つでも二つでも、地域でお役に立つ事がありましたお持ち帰りいただき、地域防災の活動に役だたせて頂ければ有り難く思います

警戒レベル		新たな避難情報等
5	火災発生時 災害発生時 又は初回	さんさりゅうあんせんなかくほ 緊急安全確保
～警戒レベル4までに必ず避難！～		
4	雷雲の おそれあり	ひなんじ 避難指示
3	災害の おそれあり	こうれいしゃとうきりなん 高齢者等避難
2	台風出没時	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	今後暴雨の おそれあり	早朝注意情報 (気象庁)



今回の講演のきっかけは、

総務省消防庁主催の「2024 防災まちづくり大賞」に応募！



今年度(2025年)は、堺市消防局 堺市総合防災センターが受賞。

受賞が叶いませんでしたが、

受賞発表の直後に「能登半島地震」が発生。

日本防火・防災協会から

東池尻自主防災会の活動を「地域防災誌」へ

掲載し、全国の自主防災組織の参考になればと
執筆依頼が来る。2024.12月発行



新しいスタイルの防災訓練で地域防災力の充実強化

防災意識向上プロジェクト語り部

東池尻自主防災会

発起人は、元消防士の山村正則さん

あの「阪神淡路大震災」の発生直後、勤務先の大坂市内の消防署から第一陣で被災地「神戸」に出動し、過酷な経験をされた方



山村正則さんの体験された「断腸の思いで目的地に」という手記が、大阪市消防局発行の貴重な災害記録誌「阪神淡路大震災: 大阪市消防活動記録」に掲載されています。

毎年欠かさず精力的に防災訓練を実施



阪神淡路大震災より30年

自主防災会設立発起人の山村正則氏にご講演をお願いしました。

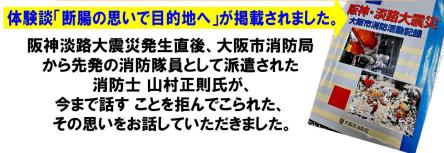
防災講演会

消防士が見た!!
『阪神・淡路大震災の記憶』

令和7年1月19日(日)午前10時00分～11時 場所: 東池尻会館

講師: 山村正則氏 東池尻自主防災会会員、大阪市消防局防災課幹事長(阪神淡路大震災防災官)

大阪府消防本部に消防機具として被災地で救助活動を行った各部署とともに語っていただきます。



それでは、まず、なぜこの講演をさせてもらうようになったのか経緯をお話します。

●ある防災関係の方から、東池尻自主防災会の活動が素晴らしいので、消防庁の「防災まちづくり大賞」に応募されたらどうですかと。因みに昨年度は堺市総合防災センターが受章されたというすごい賞なんですが。その方が、東池尻ならきっと大賞が取れますよ。是非この活動を全国に広めてください。と言われたのがきっかけで、一昨年に応募したのですが、応募要領とかで文字数とか決まっておったのにも関わらず、私の思うままに書いてしまい、審査の土俵すら上がらなかつたのでは。と。そしてその年末に受賞団体が決まって、やっぱりダメやつたなあと思つていました。しかし、その直後の元旦に能登半島地震が発生しました。それから、暫くして、私のもとに総務省消防庁の何々です。と、突然電話があり、東池尻自主防災会の「市役所も消防署も被災、その時あなたはどうしますか」という活動を「地域防災」という機関紙に掲載させていただき、全国の防災関係者に見てもらいたいと言われ、但し条件がありました。もしこの活動の話を聞きたいという自治体や団体があれば話をしてもらいたいということで、防災まちづくり大賞の防災意識向上プロジェクト語り部と同じような役割でした。未だ他市からは問合せもなく今に至っています。

●それでは、まず東池尻自主防災会について説明します。

平成17年に設立され、発起人は、元消防士の山村正則さんですが、大阪市消防局を定年退職されてすぐの事でした。

この山村正則さんは、あの「阪神淡路大震災」の発生直後、勤務先の大坂市内の消防署から第一陣で被災地「神戸」に出動され過酷な経験をされた方で、その教訓から自主防災組織の活動には人一倍力を入れられて来られました。常に共助の重要性を訴えてこられ、消防署での経験を活かした防災訓練は市の総合防災訓練にも負けない本格的な訓練で住民の心を掴みました。避難誘導訓練から始まり、担架作成、煙ハウス体験、応急手当、心肺蘇生、炊き出しなどに加え、地元消防分団の活動を前面に出し、「お前らが地域を守らんとどうすんや！」と消防団員には常に叱咤激励され、大勢の住民の前でのポンプ操法訓練披露は定番となり、消防団員数も増えています。

自主防災組織の会員数の移り変わりをご覧ください。

設立当初が410世帯でしたが、それから新たな住宅開発が進み、新しく転居してきた子育て世代にも自主防災組織や自治会の重要性を説いてこられ、どんどん会員が増えています。他地域からは羨まれるぐらいの大所帯となりました。私が後を引き継いだ時には住宅開発も一段落し、転居者も少なくなりましたがこの間に築かれた地域力と言うでしょうか。自治会等の衰退が懸念されている中、会員数が徐々に増えています。子育て世代のお母さんが知り合いの未入会の人に入会を勧めるという好循環が生まれています。

●今年、阪神淡路大震災から30年を迎えました。

前会長で防災会発起人である山村正則さんに「消防士が見た阪神淡路大震災の記憶」と称してご講演をお願いしました。満80歳になられた今までずっと話を拒んでこられた、その思いをお話していただく予定でしたが、前日に体調を壊され緊急入院され、病院から電話を通しての講演となりました。

その講演内容の一部を紹介させていただきます。「震災発生から4時間後の午前10時15分、神戸がどのような状況になっているのか全く分からない状況で第一次応援隊としてポンプ車10台で出発、想像を絶する交通渋滞の中、ルート変更したり、隊員が下車し先導して逆走行など繰り返して進み、西宮から芦屋へと進むにつれ、被害の惨状が激変し、この地震のすさまじさを痛感し、これから始まる活動の難しさに緊張が

東池尻自主防災会

平成17年(2005)12月発足

会員数の移り変わり

平成17年(2005) 410世帯

平成23年(2011) 490世帯

令和元年(2022) 660世帯

令和7年(2025) 701世帯

断腸の思い！



生き埋めになり救助された人の98%が自助と共助で助けられました
阪神・淡路大震災の被害（概要）
死者 6434人
住宅被害 63万9686棟
火災被害 7574棟

（出典：防災・減災・復興情報センター）

「コロナ禍」

真っ只中！

いつ災害が発生するか分かりません。
養ってきた地域防災力を失いたくない。
役員全員、防災訓練中止はあり得ない！
集まらない防災訓練はできないか！

3密を避ける with コロナ時代の訓練

歩いて 知ろう！ 東池尻！

防災訓練スタンプラリー



テーマは、「家族の命を守る」

●住民は、家族や近所の人と自宅からスタート



●地区内に設けられた防災拠点「防災知識の泉」を回ります。



●「防災知識の泉」で、家族で学習、防災クイズに挑戦！



走りました。完全に崩壊した木造建物や隣の家にもたれかかるように傾いている建物、大きなビルも途中階から押しつぶされて、道路にも大きな亀裂が入り、陥没している所も多く、路上には瓦や木材などが散乱して交通渋滞に拍車をかけておりました。

そんな時に、突然、40歳ぐらいの女性が消防車の前に現れ、手を広げ、仁王立ちで立ちはだかり、「家の下敷きになっているお父さんと子どもを助けてください」と言って動こうとしなかったが、我々は、消火隊として神戸に向かっていることや救助の資機材も積んでないので、救助できること説明し、心を鬼にしながら車を進めました。行く先々で家が燃えている、早く消してくれと必死に叫ぶ人たち。

助けたいと思うが我々1隊だけが別に動くことは出来ず、病む心を抑えながら進み、神戸市役所に到着すると、大勢の人が着の身着のまま、毛布をかぶってうずくまっている人など、被害の大きさを改めて認識しました。災害対策本部の指示で長田区管内に移動し、消火活動を始めるが消火栓は破壊して使えず、水源を海から取るために長田港から、ポンプ車7台で中継して放水するという、今までしたことの無い消火活動で、大きい道路上にホースを延長している為、大型車両などに踏みつけられ、ホースが切断されるなど思うように消火活動も出来なく悔しい思いをしました。この経験で、みなさんにお伝えしたいのは、亡くなられた方のほとんどが、即死状態で、家の崩壊や家具などの転倒による「圧迫死」だった。みなさま、いかがでしたでしょうか。

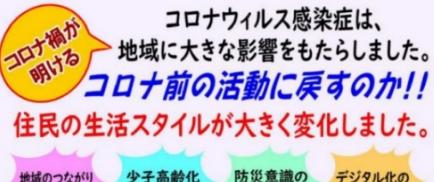
●それでは、先ほどの当会の活動を推薦していただいた方がこの活動は凄い！と評価していただいた活動を紹介させていただきます。私が自主防災会会长をさせていただいた翌年の事ですが、コロナ禍の真っ只中。地域の色々な活動が中止に追い込まれる中、東池尻地区では大災害はいつやって来るか分からぬ。今まで築いてきた住民の防災への思いをこんな事で途切れさせてはならない。防災訓練の中止はあり得ない。というのが地区役員全員の意見でした。集まらない防災訓練は出来ないかとみんなで意見を出し合い、地域に住んでおられる防災士の岡本裕紀子さんにも会議に加わっていただき、考えたのが「集まらない防災訓練スタンプラリー」でした。これがその時の様子です。とにかく、家に閉じこもっている住民のみなさんをコロナ対策万全にして外へ引っ張り出そうと考えました。地区全体を訓練会場に設定して自宅からスタートしてもらい、まずは地域を知つてもらうことから始めました。さらに自分や家族の命を守るためにどうするのか、家族で考えていただく機会にしてもらおうと、地区内にある危険個所や広域避難場所、公衆電話、病院、福祉避難所など6ポイントを決め、そこに防災知識を習得できるパネルを展示し「防災知識の泉」と名付けました。さらに家族で話し合うきっかけ作りとして「防災クイズ」を出題し家族単位で挑戦してもらうという仕掛けもしました。最終地点で答え合せをしてもらい防災グッズを景品としました。最終地点では、自宅で簡単に作れる防災食のレシピを渡し、試食品を持ち帰っていただき終了です。参加者のみなさんからは、久しぶりに家族と一緒に散歩できて楽しかった。とか、初めて家族で防災の話ができて良かった。とか実際に避難経路の確認ができました。とか、大好評でした。新聞にも掲載されるなど大きな反響がありました。ここで、子どもたちにも好評であった防災クイズをご覧ください。ユニークな質問ばかりで子どもたちも興味をもって取り組んでくれました。

「防災意識の泉」に設置した防災知識のパネルも少し紹介させていただきます。岡本裕紀子さんに子どもたちにも分かりやすく興味の持てるようと考えていただきました。会場後ろに展示していますので、後でご覧ください。

防災スタンプラリー6ポイントに設置した「防災クイズ」

質 問	正 答	正 答
地震発生の時、真っ先に守らなければならないのは？	A 騒ぎ B おなか C おなか	A
火災発生！どれをかぶつて逃げると良い？	B ループハンドタオル C ブルーシート	B
地震の時、タンスが倒れてくるのですぐには？	A おなかをつかむ B おなかをつかむ C おなかをつかむ	C
避難して家を離れる時、最後にすることは？	A おなかをつかむ B おなかをつかむ C おなかをつかむ	A
枕元に置いておくと良い防災グッズは？	A わくわく時計 B 寝袋 C 食事のメニュー	B
防災医療機関で決めておくことは？	A 避難の無形先 C 集合場所	C





変化するニーズに的確に対応！

東池尻でも【防災改革】を！

★課題の抽出★

- ・役員、活動員の高齢化。
- ・参加者の固定化。
- ・防災訓練内容のマンネリ化と形骸化。
- ・住民の防災意識の低下。
- ・昨今の激甚化、頻発化する自然災害。

★課題を解決★

- ・緊迫感、臨場感を持たせた訓練とする。
- ・会館消防訓練と連動させ各種団体の参加を促す。
- ・住民の自助意識を高める防災研修の受講を徹底。
- ・中核である消防団との連携強化。

「自助」を極めろ！
自分・家族の命！自分たちで守る！
堺市総合防災センター
地域住民が全員受講できる仕組みを構築。
現地集合、交通費弁償、選べる日程

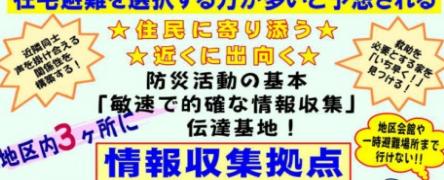
★新しい防災訓練【シナリオレス訓練】★



災害発生時の基礎【情報収集と伝達】



在宅避難を選択する方が多いと予想される



情報収集拠点



●さて、ここからが本題です。消防庁から総合情報誌「地域防災」に掲載された活動を紹介させていただきます。

東池尻版「防災改革」と言うのでしょうか、この新しい形の防災訓練が評価されたようです。コロナ禍は明けましたが、コロナウィルス感染症は地域に大きな影響をもたらしました。

何もなかったようにコロナ前の防災訓練に戻すのか。

地域のつながりも希薄化し若い世代の防災意識の低下、デジタル化の進展など変化する住民のニーズを的確にとらえることが重要です。

東池尻自主防災会の体制と防災訓練の課題を抽出し、それらを解決するにはどのようにすればよいかを話し合いました。

●自主防災会は設立より20年ほど経過し、役員は交代していますが、組織の活動員の高齢化が一段と進み、防災訓練の参加者も同じ顔ぶればかりで固定してきている。この間ほとんど変わっていない訓練内容もマンネリ化と形骸化が危惧される。若い世代の防災意識の低下が著しいなど、色々な課題があり、もし、大災害が発生すれば今の体制で大丈夫なのか。ちゃんと効力を発揮できるのかと心配する声が多くありました。昨今の激甚化、多発化する自然災害に対応できる体制づくりを急がねばならないと結論になり、みんなで知恵を出し合いました。考えたのが、山村正則さんがずっと言い続けておられた、住民のみなさんが自分自身の命を守るという自助意識を高めるための防災研修を徹底する事。防災訓練は、発災時を想定して緊迫感と臨場感を持たせる事。今まで訓練に参加していない人も参加できるよう工夫する事。救助や消火訓練の指導も消防署ではなく、地元の消防団に指導してもらう事など新しい形の防災訓練の方針が決まりました。

●まず行ったのが、「自助を極める」として、住民全員が実践的な体験型学習施設である堺市総合防災センターで防災学習を受講いただく仕組みを作ります。それにより、自分や家族の命は自分たちで守る！と意識づけを徹底します。堺市総合防災センターへは、参加しやすいように、各自で自家用車や循環バスなどを利用し現地集合していただき、交通費を弁償します。受講日時を複数設定し都合の良い日時を選んでもらうなど、住民が受講しやすいように考えていきます。

●毎年行っている防災訓練は、市が阪神淡路大震災発生日に近い日曜日に「市内一斉シェイクアウト訓練＆安否確認訓練」を実施しており、それに連動させて防災訓練を実施し、臨場感を持ってもらいます。

今日の資料に添付しているのが、今年度の防災訓練時に全世帯に配布したチラシと安否確認カードです。合せてご覧ください。この3枚チラシと一緒に「黄色のタオル」もセットして配布しました。

これは2年連続で同じ物を配布し念押しするという、ぜひ参加してもらいたいという思いを伝える試みです。今年も配布し盛り上げたいと思います。新しい形の防災訓練は、実際に災害が発生したという想定なので、事前準備は無しとし、ぶつけ本番でやります。

●まず、住民の皆さんは自宅からや会館で会議中からスタートします。

地震発生時刻に防災行政無線から緊急地震速報が流れ、地区会館のサイレンを鳴らします。住民にはその場で自分の身の安全確保するシェイクアウト訓練を実施してもらいます。

その後、安否確認訓練に移ります。皆無事であると想定し事前に配布している「黄色のタオル」を自宅前に吊るし、近所を見回り、これも事前配布している「わが家の安否確認カード訓練用」に記入し、近くの自主防災会の「情報収集拠点」に持っていきます。

そこで支援物資をもらい、児童遊園での救助訓練に参加してもらいます。

●自主防災会の防災委員はシェイクアウト訓練後、児童遊園に集結し、防災対策本部を立ち上げ、地区会館と児童遊園に一時避難場所を設営し、地域全体の被災状況を把握するため、地区内3ヶ所に「情報収集拠点」設置するために担当者を決め派遣する。

対策本部長副本部長は児童遊園に集まくる住民に活動班の役割分担をお願いします。班長をする人は本部長の判断で直接お願ひします。

これをシナリオレス訓練といい、緊張感はピークに達します。

シナリオレス訓練「初動体制」の見直し

激甚化・頻発化する自然災害に対応できる体制に!



みんなが助かる!
誰一人取り残さない防災を目指します。



「地域総ぐるみ」

大阪府 箕面市 防災改革

東日本大震災を教訓として
防災体制の抜本的な見直し
平成23年10月～倉田哲郎市長が推進

基本方針《三方向性》

- まずは、行政にしかできないことは、行政が率先して行っていきます
そして、市民の皆さん一人ひとりは、自分の身は自分で守るという意識を持って災害に備え、近所の皆さんと協力し合いながら防災活動に取り組むことを、ぜひともお願ひします。

※山村が参考にしました。

山村が驚いた4つの改革

その1 自主防災組織を再編！

各自治会単位で設置していた自主防災組織を解体し、小学校区ごとに「地区防災委員会」を設立。行政機能が停止していても、地域で地域を守る体制。

市役所職員も3人ずつ配置されている。

その2 地域防災ステーションの構想

市の比較的広い公園や広場に、消火・救助資機材を備蓄した小型基地を整備。現在6ヵ所。

自治会などで災害発生直後の一時的な集合場所とし安否確認の収集や、消火・救助が必要なところに人を送ったりする「災害時の活動拠点」とします。市などからの救援物資の配布拠点になります。

その3 防災対策の第一歩、自治会に入る事！

大規模災害時の安否確認を自治会単位で行います。支援物資配布も優先的に自治会を通じて行います。

大切な家族や災害から守る第一歩

地域活動の活性化や災害時の緊急連絡に必要な名簿づくりが進むよう

「箕面市ふれあい安心名簿条例」ができる

その4 1月17日は、市内一斉総合防災訓練！

曜日にかわらず大規模地震の発生を想定した市による総合訓練+17小学校区訓練

いつ起きるかわからない大規模地震に備えて、家庭・自治会などの地域と学校、事業所などさまざまな立場で防災体制を定期的に確認する

活動班の指導は消防団員が受け持ちます。実際の災害時に誰が集まれるか変わらない状況で、誰でも活動できるだけの能力を養っていきます。

●「情報収集拠点」ですが、住宅の耐震化が進み在宅避難を選択される方が大半だと予想し、その情報収集を徹底するために、こちらから地域に出向きます。東池尻地区では、「みんなが助かる！誰一人取り残さない防災」の実現を目指し、とっても地区会館まで来れない高齢者などにも寄り添える体制を整えます。また、地区会館の自衛消防訓練とも連動させることで、新たな参加者が見込めます。さらに地域にある病院や会社の皆さんにも参加していただきます。これは、平日などに災害が発生しても社員の方も被災者となり、反対に工場や病院を避難場所として提供してもらわねばなりません。実際に地区内の病院では普段から地下水で運営しておられ、災害時には地域住民に提供してもらうという提携もしています。そして自分の地域は地域で守るという強い意志で活動している消防団には、防災訓練時のリーダーとし活躍してもらう事により、地域住民に安心感を齎します。

●それではここで、この東池尻自主防災会の改革を行なうにあたり参考にさせていただいた自治体が行った「防災改革」を紹介します。

●北摂の箕面市です。2008年に倉田哲郎市長が就任され、在任期間中に実施された「箕面市防災改革」です。倉田哲郎さんは市長になられる前から、箕面市の行財政の危機的な状況を解決するため総務省から派遣された官僚でそのまま箕面市に留まり市長になられた方で、就任されてすぐ東日本大震災が発生しました。阪神淡路大震災から17年、市民の防災意識も徐々に薄れつつあることに危機感を持っておられた時期にこの東日本大震災の状況を目のあたりにされ、もし同じような大災害が発生したら今の箕面市の防災体制で対応できるのかと危惧され、この防災改革基本方針を打ち出し改革に取り組まれたそうです。

ぜひ、ネットで検索してください。すごいですよ。最低3日間持ちこたえる。向こう三軒両隣。が合言葉だったと言われています。

その中で、私が特に驚いた4つ改革を紹介します。

●一つ目が、自治会単位で組織していた自主防災組織を再編するという大胆なことをされました。今の大坂狭山市では考えられないことです。自主防災組織も年数が経つと熱心な地区と全く動いていない地区とが生じ、マンション管理組合も自治会活動がしづらい状況で、さらに発災時には避難所となる小学校にはたくさんの団体が集まり混乱が生じる懸念があり、小学校区に纏めるのがベストと考えられました。しかも、市役所職員が市長の委嘱により3人ずつ配置され、行政機能が停止しても対応できる体制を作ります。これには大変ご苦労されたようです。

●二つ目が、地域防災ステーションという考えです。地域にある公園や広場に消火・救助資器材を備蓄した小規模の基地を整備されました。災害発生直後の住民の一時的な集合場所とし、安否確認の収集や消火や救助の必要なところに人を送ったりする「災害時の活動拠点」です。市からの救援物資もそこに届きます。みなさん、大災害が発生し、近所で火事が発生、家の下敷きになっている人がいる！119番が繋がらない。そんな時どうされますか。自分一人ではどうにもできない！助かる命が失われる！燃えなくても済んだ家が燃えてしまう！急がねばならない！そんな時、ここへ行けば誰かが居てる。救助資器材も揃っている。それを実現したのがこの「地域防災ステーション」です。

●三つ目が、さらに驚きました。「防災対策の第一歩は自治会に入る事！」私は昨年まで自治会地区会連合会の会長をしており、行政がここまで出来るのや！と青天の霹靂でした。と、市役所が発行する防災のすべてのパンフのトップに記載されているのです。安否確認に使用できる名簿も個人情報の観点で困難な事も多く、それを解消する条例です。

●四つ目です。これまた、驚きました。

毎年、市内一斉総合防災訓練を先ほどの17小学校区の「地区防災委員会」と市の施設が一斉に防災訓練を行っています。

その開催日は、阪神淡路大震災の1月17日と決めておられ、休日でも、平日でも関係なしで開催しています。ほとんどの自治体が土日に開催して

明日、起るかもしれない 大災害 地震編

そのとき地域が命を助ける！

1 小学校区ごとの地区防災委員会

2 自治会に入る

3 黄色いハサカチ作戦

4 地域防災ステーション





いる現実。いつ起きるかわからない大規模地震に備えて、家庭、地域、学校、市など様々な立場で防災体制を定期的に確認するための訓練です。いざというときに必ず役に立つはずです。

●倉田哲郎市長が退任されて早や5年が経ち、今も継続されているか検証するために直接市役所にお邪魔し、防災担当者から聞き取りをさせていただきました。大阪府消防団長研修会で知り合った箕面市消防団長を通じて、アポを取っていただいたのですが、みなさん！ 住みよさランキングで常に大阪府1位という箕面市なんですがどんな市役所だと思われますか。

なんと古ぼけた市役所で玄関も狭く、入ってみると市民でいっぱいいて、各部署への誘導は昔の病院のように床に貼られた色テープを辿っていくのです。両側にずらっと並んだ各部署の窓口には市民がいっぱいいてどこも満席状態でしたが、職員のみなさんがテキパキと対応されている様子にすごく好感を持ちました。これにランキング1位の秘訣があるので私はと思いました。

防災を担当されている市民安全政策室のみなさんに現在されている保作についていろいろ聞かせていただきました。

現在、市民に配布している防災のパンフレットをもらってきてましたので、それを使って説明させて頂きます。倉田市長が精力的に実施された防災改革なんですが、上島市長、原田市長へと着実に引き継がれているのには驚きました。

これがこの4月に発行された「大災害」というパンフです。4項目です。

●1番目が地区防災委員会のこと、地域防災の中核としての役割を担う組織となっており、発災時に行政機能が停止する状況でも機能する体制として活動されています。マンション管理組合も参画し、校区であることにより担い手不足の陥っている自治会などのフォローも可能となります。さらに市職員が3人ずつ配置されることにより市災害対策本部との連絡もスムーズにいきます。

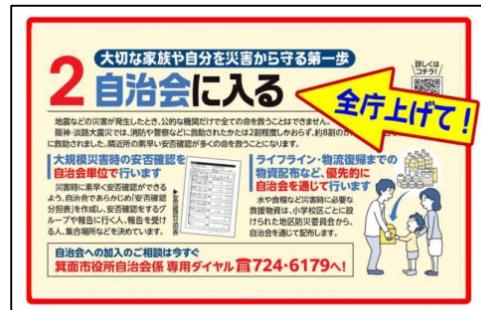
●市内一斉総合防災訓練も曜日関係なしで実施する意義も大きく、家庭の備えができているか。家族がバラバラに過ごしている平日。学校に子どもたちがいる状況での避難所訓練も有効で、サラリーマンが増えている消防団の平日の動員力の検証にも繋がります。

●2番目が「大切な家族や自分を災害から守る第一歩」として「自治会にはいる」と大きく明記されています。安否確認は自治会が担当し、救援物資の配布も優先的に自治会へ行うとか、全庁あげて自治会加入促進に力を入れられています。

●3番目が、向こう三軒両隣を重視され、黄色いハンカチ作戦を全市あげて実施されています。これは大阪狭山市でも実施されていますね。

●4番目が、地域防災ステーションのことが挙げられています。東池尻地区で一番参考にした施策で、現在、東池尻地域防災センターとして建設中です。この件は後程説明させていただきます。この防災ステーションは、箕面市内に61カ所設置しておられ、私も現場を見てきました。街角の児童公園に高さ50cmぐらいの1坪ほどの頑丈な箱です。そこが発災直後の近隣住民の一時的な集合場所とし、住民が中の消火・救助資器材を持って一刻も早く救助に向かうという活動拠点であり、さらに市からの救援物資の配布拠点となります。収納されている資器材は24種類。なんと、ステーションの鍵はダイヤル式なんですよ。

●みなさんの地域でも防災倉庫を設置しておられると思いますが、鍵の管理はどうされていますか。発災時、鍵を持っておられる方々が被災されたら開けることが出来ません。住民が真っ先に駆けつけても救助資器材が出せないという状況をなくすためにダイヤル式とし番号を入れるだけで開けることが出来ます。その家まで鍵を取りに行かなくても電話やLINEで聞くことが出来ます。市役所の担当課に番号を登録しているので市に聞くことも可能です。もちろん盗難防止のために開錠時や定期的に番号を変更するそうです。これはすごい発想ですね。是非みなさんの地区でも直ぐにでも導入してみてください。



箕面市の自治会加入率（最新状況）

- 令和6年（2024年）12月31日時点での自治会加入率は51.6%（自治会に加入している世帯数：33,037世帯／全世帯：64,038世帯）です。

市が公開するこの数値は、自治会とマンション管理組合を含む団体数（会員会322団体＋マンション管理組合99団体＝計421団体）に基づいた集計です。箕面市公式データ

推移と増減傾向

- 令和元年（2019年）12月末時点では加入率は48.3%でした。
- その後の推移として、加入率はいったん低下傾向にあったものの、令和6年には再び上昇し、+4.7ポイントの増加となりました（48.3%→51.6%）。
- 他方北摂7市（高槻市・茨木市・桥本市・吹田市・豊中市・池田市）と比べても、箕面市は加入率の基準値が目立ち、上位に位置づけられているとの分析があります。

●「できている？大地震への3つの備えという」一枚物のチラシですが、なんと①が自治会の入る！となっており ②が3日分の水・食料を備蓄する ③家の耐震診断を受ける！なんですが、市が発行するチラシなんですよ。一番目に自治会に入るとなっており、ここまでやるか！と思われる方もおられるでしょうが、ここまでやってほしいですね。

他にもいろいろな防災のパンフレットを配布されているようです。

●「防災マップ」を配布されています。これはハザードマップに防災ステーションの場所や防災情報も載せており分かりやすいと思いました。

●AIで調べてみたのですがまた、箕面市の自治会加入率ですが、現在51.6%で、7年間から4.7ポイントの増加しているではありませんか。全国的に自治会加入率が減少している中、これらの防災の施策が影響しているのでしょうか、珍しい事例ですね。また参考にしてください。

●ここで、東池尻地区の活動に戻ります。今年度の新たな取り組みを紹介させていただきます。

●1点目が「東池尻地域防災センター」の建設です。これは東池尻固有の財産を管理する池尻財産区の交付金によって建設しています。今を生きる者が安全で安心して暮らせるよう災害に強い地とするために、これまで養ってきた住民の防災意識を集結させる防災拠点として運用します。箕面市の防災ステーションの理念を参考に誰一人残さない防災を実現します。普段から住民の絆を紡ぐ交流の場所として利用していただき、イザという時の活動拠点とします。この防災センターを自分事として捉えてもらうため愛称を募集しています。

●さらに地域防災センターの建設を機に、東池尻の安全と安心を守ってくれる次世代を育成するために「防災少年隊」を組織します。小学4年生から中学3年生(卒業は高3)を対象に募集する予定です。指導は消防団員や安全安心推進リーダーや防災士会、防災レンジャーさんなどにお願いする予定です。以上が自主防災組織の活動ですが、

ここで消防団について説明させていただきます。

●大阪狭山市消防団の起源は、大正時代に各村にあった消防組と言われた組織です。昭和14年に警防団となり戦後消防団となりました。狭山町消防団から大阪狭山市消防団となり、大阪府の消防大会においても輝かしい功績を残されています。大阪狭山市の消防事務が堺市に委託され、消防団の事務局は、危機管理室に移管され現在に至っています。

●消防団員と消防士との違いを説明させてもらいます。

消防団員はご存知のとおり普段は本業を持ちながら活動していますが、出動時は非常勤の特別職地方公務員という位置づけで、消防士は常勤の地方公務員となっており、消防士採用試験に合格し厳しい訓練を受けて消防署で勤務しています。消防団員は大阪狭山市に住んでいるか市内に勤務や通学している、18歳以上の健康な方なら誰でも入団できます。是非、ご紹介いただけますようお願いします。

●大阪狭山市消防団は、市内10地区に分団が設置されており、それぞれに消防ポンプ車が配備されています。各地区にある消防団車庫は見られたことがあるでしょうか。北から時計回りに、東野、東池尻、池尻、狭山、半田、茱萸木、大野、今熊、岩室、山本の10分団です。そのほか、女性分団の組織されており広報活動や救命講習などの活動をしています。また、本部要員として活動している団員もいます。現在、101名の団員が非常時のために出動できる体制を取っています。

●能登半島地震でもそうですが東日本大震災など多くの災害で消防団員が活躍したと報道されていますが、反面犠牲となられた消防団員も多く、それまでの消防団は火消しだけだったのですが災害対応も大きな役割を果たしています。そんな中で「消防団を中心とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行され、消防団が地域防災の要となっていかねばなりません。この法律では、「消防団は将来にわたり地域防災力の中核として欠くことのできない、代替性のない存在」とあると明記され社会環境が変化していく中でも、消防団の存在意義は不变である。むしろ大きくなっているということです。

東池尻地域防災センター

令和7年10月完成予定で建設を進めている（仮称）東池尻地域防災センターは、住民の安心と安全を守る「地域防災拠点」としての機能だけでなく、「つながり絆を新ぐ住民の交流の場」として、地域のみなさまに長く親しまれる施設となるよう、愛称を募集します。

愛称募集

★ 東池尻地域防災センターの主な機能 ★
消防団拠点 安全確認施設 防災活動室 防災資料室
防災訓練場 大底の下で 地域住民の絆を育む交流の場

東池尻 防災少年隊 員募集中！

子どもの頃から活動を通して、防災や防火に関する様々な知識や技術を身につけ、将来、地域の防災活動に貢献できる子どもたちを育成することを目的に、少年隊員の募集します。

● 小学生4年生～高校3年生までの男女
● 活動費は東池尻地区会よりの補助金を充てる。
● 会員原則無しとする。個人的費用は別途徴収。
● 指導は、防災・消防関係者とする。※消防士会・防災レンジャーさん

地域防災の要

大阪狭山市消防団

団長 山村歳幸

大阪狭山市消防団 沿革

大正時代 各村に消防組が設置される。
昭和14年 聖防団と名称を変える。
昭和26年 狹山町となり消防団として再編成。
1団10分団の狭山町消防団が誕生。
昭和46年 消防非常備部が発足する。
昭和47年 狹山市消防本部が発足し、消防署が開設される。
昭和62年 市制施行に伴い、大阪狭山市消防本部となり
大阪狭山市消防団となる。
平成2年 第34回大阪府消防操法訓練大会小型ポンプ操法の部で優勝
平成18年 第50回大阪府消防操法訓練大会大ポンプ車の部で優勝
第20回全国消防操法大会出場
令和3年 大阪狭山市の消防事務が堺市に委託され、
消防団の事務局は大阪狭山市危機管理室に移管されました。

消防団員と消防職員の違い

消防団員 非常勤の特別職地方公務員 年3万5千円の報酬、出でられれば毎日8000円の出動報酬(いずれも国の標準額)
消防団員 非常勤の地方公務員 月3万円の報酬、給料・報酬
消防職員 常勤の地方公務員 月30万円1083円(平均)の報酬と出動手当など
消防職員 常勤の地方公務員 火災に対する消防士らは交代勤務で24時間勤務

消防団は公的な消防機関

●法令に基づき、市町村に設置された公的な消防機関です。
●地域の住民や、通学・通勤している方によって構成される。
18歳以上であれば誰でも消防団に入団することができます。
●団員は「非常勤特別職の地方公務員」として位置づけられ、
公的な身分と一緒に報酬もあります。
●消防団員は、普段は会社員や学生・主婦として生活しながら
火災や災害の発生時には現場に出動し、と消防署と連携して
地域の人々の安全を守るために活動などをを行っています。
●火災時の消火活動に加え、地震や風水害などの災害時にも
救助・救出活動や避難誘導など災害の拡大を防ぐ活動も行う。



大阪狭山市消防団 組織

団長(1名)
副団長(3名)
東野分団(9名)
東池尻分団(16名)
池尻分団(9名)
狭山分団(9名)
半田分団(10名)
草薙木分団(9名)
大野分団(6名)
今熊分団(7名)
岩瀬分団(3名)
山本分団(6名)
女性分団(4名)
団本部(5名)

消防団を中心とした地域防災力の 充実強化に関する法律

教訓 平成7年 阪神淡路大震災
平成23年 東日本大震災



教訓!



消防団員訓練

全団員を対象に定期的に実施しています。消防団員として必要な知識・技能を習得・維持することを目的としています。

●大阪府立消防学校でのく教育・訓練



●規律訓練



●放水訓練



●救助訓練



●救命訓練



●資機材取扱い訓練



●それでは消防団の日々の活動と訓練をご紹介します。消防団員は、原則として毎月一回、分団ごとに消防車庫に集まり、点呼と資器材の点検を行い、いつでも出動できる体制を維持しています。またその日を利用してポンプ操法訓練を行っています。

●消防団に入団すると、大阪府立消防学校で消防団員として基本の動作や知識を習得します。消防学校での訓練は階級ごとに行われています。

●規律訓練は消防団員の基本中の基本で災害現場や消防活動に的確に行うための訓練です。服装の乱れは大きな事故につながり、姿勢の歪みは士気の低下につながり、指揮命令系統を明確にするために必要不可欠です。

●放水訓練はすべての団員が消防ポンプやホース、筒先の操作を確実にするために日々訓練に励んでいます。

●救助訓練は堺市総合防災センターで災害現場で的確に人命救助ができるように土砂埋没救助訓練や倒壊家屋救出訓練など地震災害を想定した訓練を実施しています。

●救命訓練は全団員が堺市消防局の指導で、普通、上級救命講習を受講し心肺蘇生、AEDを使った命の連鎖を習得します。

●資機材取扱い訓練は消防装備以外に救助機材が徐々に配備されておりすべての団員が的確に使用できるように訓練します。

●図上訓練は自主防災組織等と連携し、大災害をイメージしながら想定される危険個所やリスクを確認する訓練です。

●広報活動は狭山池まつりや防災フェスタなどで消防団の活動を紹介し消防団への加入促進の活動をしています。

●また、昨年度より市内に小学校の出前授業に出向き、防災意識を高め、消防団への理解を深めています。このように地域に根ざした消防団は、地域の防災力強化はなくてはならない存在であるということを理解していただけたかなあと思います。是非、みなさん。そしてお知り合いの方がおられましたら消防団の仲間に加わって下さい。よろしくお願ひいたします。

●最後に皆さんと一緒に考えていかねばならない懸念事項があります。先ほどの箕面市でも解決策が見つかなかったのですが。今日は、議員のみなさんや市役所職員のみなさまも来られていますので、あえてこの場で問題提起をさせていただきます。

●大災害発生が発生すれば公助の限界が懸念され、自助・共助が重要やと言われています。どんな小さな災害でも共助は重要です。共助すなわち近隣同士で助け合うのですが、その時に怪我や死亡などされたら誰が補償するのでしょうか。災害対策基本法にも限界があり、ちゃんとした補償制度を明確にしている自治体もあります。資料を添付していますので調べて頂ければ幸いです。助けられるほうも助けるほうも安心して過ごせる社会になるようみんなで考えていきましょう。以上で、本日の私の講座を終了させていただきます。ご清聴有り難うございました。

●図上訓練



●広報活動



小学校へ出前授業



災害対応に協力して死亡・負傷等をされた場合の補償は?



岡山市

白山市

ご清聴ありがとうございました。

地域防災の基本

自分の身は自分で守る
自分たちのまちは自分たちで守る

まずは、向こう三軒両隣